同友ぐんま

同友会の活動はこちらのQRコードからご覧いただけます。▶

2023年 9月号

発行/群馬中小企業家同友会　〒371-0013　前橋市西片貝町1-300-5 ルアン第二ビル4F　TEL 027-232-0001　FAX 027-232-0666　E-mail g-douyu@po.wind.ne.jp

継続は力！参加するたびに会社が強くなる

第28期 経営指針をつくる会・第1講

経営労働委員会主催による「第二十八期経営指針をつくる会」が八月よりスタートしました。今期も全六回・十二日間のプログラムにて設営。企業の道しるべとなる経営指針の成文化と実践で厳しい経営環境を乗り越えるため、二十三社より二十七名の参加申込がありました。

第一講は八月四日（金）・五日（土）の二日間、ホテルアミューズ富岡を会場に「経営理念の作成と深堀り」をテーマに開催。小板橋委員長の開会挨拶・趣旨説明に続き、経営指針作成の基礎として、㈱和多利合同事務所・山口氏が「経営指針作成の意義と全体像」をテーマに、経営環境の構造変化や経営者の役割の説明を交えながら、その重要性を講義しました。その後、それぞれのグループで経営課題と参加目的を改めて確認し合いました。

一日目の午後からは、中同協経営労働副委員長を務める㈱山田製作所・山田茂氏（大阪同友会代表理事）を迎え、人を生かす経営（労使見解）を根幹とした「同友会の目指す経営指針」「経営理念と経営姿勢」「3S活動を通じた企業風土づくり」などをテーマに、自身の経営体験や企業変革の経営実践を余すところなくお話しいただきました。それぞれの講義後のグループ討論では、山田氏の熱きメッセージを受けて、今後の経営指針と企業づくりへの想いを深めていきました。

二日目の中盤からは、今年度が初参加になるメンバーを中心にしたAコースと、昨年から連続参加になるメンバーを中心にしたBコースに分かれて進行。Aコースは「経営理念検討シート」の記入とグループ討論を交互に行い、メンバーからのアドバイスを受けながら、創業者の想いや自社の使命を経営理念に重ねていきました。一方、Bコースでは、引き続き山田氏の協力のもとで財務体質の強化や働く環境づくり、経営指針の浸透など、それぞれの経営課題を深掘りしていきました。

次回以降、財務分析や環境分析、経営方針や経営計画などの作成を経て、第六講では発表会が行なわれます。依然として厳しい経営環境の渦中にありますが、経営指針の成文化と実践が必ずや力になることでしょう！

いい例会のつくり方

青年部7月例会

七月三十一日（月）、同友会事務所会議室（ズーム併設）を会場に「青年部七月例会」を開催。「同友会の基本のキ！いい例会のつくり方～座長・室長・報告者・グループ長の役割と役得～」と題して、㈱Growth Seeding Bloom・代表、松葉陽祐氏（長野同友会しなの支部）が、本気で実践している例会づくりについて報告しました。

松葉氏は自己紹介・入会の経緯に続き、同友会との関わり方が変わったエピソードと、その時々で感じた疑問や解決に至るプロセスを紹介しました。

支部例会や青年部などの行事に参加することで得られる学びに加えて、支部の役員や行事の設営側に立って主体的に関わる中でより多くの学びを得て、同友会の三つの目的の実現を目指し切磋琢磨していきたいというメッセージが込められていたように思います。

今年度の青年部活動方針を具体化したような例会となり、今後の支部例会へのフィードバックにも期待が高まります。

おしごとお結び会in太田

太田支部８月サブ例会

八月八日（火）、太田市浜町勤労会館を会場に、太田支部八月サブ例会「おしごとお結び会」を開催しました。高崎支部のサブ例会としてスタートした「お結び会」ですが、回を重ねるごとに会員外の参加者も増え、同友会の仲間づくりに直結する活動の一つになっています。太田市内で開催した今回は、県内六支部からの参加申込みに加えて、参加者の半数近くが会員外という構成で進行しました。

自社をアピールしたい三名のプレゼンの後に、軽食をとりながら参加者同士の交流を図るプログラムは、同友会の行事に初めて参加する方にとってハードルが低く、程よい距離感が好評を得ています。会場内では、他社の製品やサービスについて興味深く話を聞いたり、積極的に名刺交換をする様子が見られました。

四〇名を超える大盛況で幕を閉じ、今後の他地域での開催を期待させる盛り上がりとなりました。

アルミ精密部品の切削加工メーカー
株式会社 エーピーエム
充実した設備と長年培った確かな技術力で
お客様のご要望にお応えします！
〒373-0847 群馬県太田市西新町103-2
TEL0276-30-4058　FAX0276-30-4059
URL：http://www.apm-f.com　E-mail：fuse@apm-f.com

今お使いの会計ソフトを
「未来を見る経営羅針盤」へ進化させる!!
クラウド予算実績管理ツール
YOJiTSU®
https://yojitsu.net/
同友会 高崎支部会員　株式会社シスプラ　0120-638-377

伝統は革新の連続

桐生支部7月例会

七月二十七日（木）、桐生商工会議所を会場に「桐生支部七月例会」を開催。刺繍加工の㈱笠盛、代表取締役会長・笠原康利氏を招いて「伝統は革新の連続～二〇〇年企業を目指すために～」をテーマに、同社の沿革や現在の取り組みなどをお話しいただきました。

笠原氏は、繊維のまち桐生の歴史と同社前史の説明に続き、自身が入社以降の顧客開拓やインドネシアの法人設立（後に撤退）、海外展示会への出展、オリジナルブランドOOO（トリプル・オウ）の立ち上げなどを当時のエピソードを交えて紹介。また、厳しい繊維業界のなかで成長・発展を続ける理由として、社員を巻き込んだ経営計画の作成や社内研修（笠盛人の日）などの取り組みを解説しました。最後のまとめでは「トップが熱を持って言い続ける、走り続ける」「チャレンジしたから今がある。準備が整ってからではチャレンジじゃない」と参加者にエールを送りました。

報告終了後は「新しいことに挑戦していますか?」をテーマにグループ討論を実施。各社の挑戦事例を交流したほか、「経営者の熱量が挑戦の原動力」「仕事の見方を変える、自社を俯瞰することが挑戦につながるのでは」など、活発な意見が交わされました。

人も会社も育つコミュニケーション術

富岡安中支部7月例会

富岡安中支部では、七月二十八日（金）、富岡市生涯学習センターを会場に支部例会を開催しました。

「人も会社も育つコミュニケーション術～社員が安心して成長できる職場づくりの鍵～」と題して、福祉事業（相談支援事業）、メンタルヘルスなどを行うケルン㈱、代表取締役・乗附和子氏が、実例なども織り交ぜながら報告を行いました。

乗附氏は、世代や地域、職種によっても言葉の意味や捉え方が変わってしまうため「言葉は伝わらない」事を前提に、文字やイラストなどの相手に合わせた表現方法の必要性を説明しました。また、円滑なコミュニケーションに加えて、心理的安全性の確保や職場の実態に合わせた環境整備が、社員が成長する鍵であると付け加えました。

参加者アンケートには「コミュニケーションがいかに重要で難しく、素晴らしい事なのかがわかった」「自分は一方通行のコミュニケーションだったのではないかと気付かされた」といった感想が記されていました。

鳶から鮨屋、嘘みたいな話

沼田支部7月例会

沼田支部では、七月二十六日（水）司鮨を会場に支部例会を開催。同店の店長・山田国大氏が「鳶から鮨屋、嘘みたいな話」と題して、全くの異業種である鳶（建設業）から、なぜ鮨屋なのか?その経緯をお話しいただきました。

鳶を選んだ理由は「単純に給料が高かったから」と振り返りますが、稼ぎたいという気持ちが、強烈な縦社会で生き抜くエネルギーになり、頼まれた仕事は何でも挑戦してきたと言います。やがてその姿勢は経営者の目に留まり、司鮨の店長として抜擢され、鮨職人へと転身します。「断らずに挑戦する姿勢が評価されたと思う」そう語る山田氏の発言に、参加者は大きく頷いていました。

転身後すぐにコロナ禍で来店数が激減した事にも触れ「経営への影響は大きいが、修行する時間がまとめて取れたのは良かった」と、自分に降りかかる出来事をポジティブに捉える思考が垣間見えました。

今後の山田氏の活躍と司鮨の新たなステージに期待が膨らむ例会となりました。

サラフジ見学例会

前橋支部7月例会

前橋支部では、七月二十八日（金）、会員企業の見学例会を開催しました。

大型製缶／大型機械加工、設計から素材の切断・曲げ、製缶・組立・塗装までの全工程を一貫対応で行うサラフジ㈱、代表取締役・佐藤孝志氏（広報メディア戦略委員長／前橋支部副支部長）の協力で、稼働時間中の同社の工場を見学しました。

工場では、大型の機械やシャッター、吊り下げクレーンなど、普段見ることのない製造現場に加えて、大型製品を取り扱うためのスケールの大きさに圧倒されました。その後の報告では、経営指針を中心とした同社の効率化への取組や成果などが報告され、見学してきた現場の様子と相まって理解度が深まりました。

工場が稼働中である日中の例会開催となり、参加者が減少してしまう不安もありましたが、他支部からの参加も多く、現場を見る「企業訪問例会」の重要性を感じる機会となりました。

経営者の責任を果たす

渋川吾妻支部7月例会

七月二十日（木）、渋川市中央公民館を会場に「渋川吾妻支部七月例会」を開催。きのこの生産・販売などを手掛ける㈲月夜野きのこ園、代表取締役・金子崇範氏（沼田支部）が「経営者の責任を果たす～農業を変え、常識を変え、世界を変えていく～」と題して経営体験を報告しました。

金子氏は、自己紹介・会社概要の紹介に続き、同社で取り組んでいる栽培技術のデータ化や情報発信（広報）、環境整備活動を通じた組織づくりなどを丁寧に説明。また、クワガタ事業の立ち上げと成長の道のり、会議制度や経営計画発表会などの定着化について振り返った上で「社長の役割は決定とチェック。情報が集まらないと決定できない。チェックがなければ何も進まない」と自身の経験をもとに語りました。

報告終了後は「自社の成長・発展に必要なこと」をテーマにグループ討論を実施。「本業を大切にしつつ、隣接異業種への展開」「組織内の共通言語、共通認識が不可欠」「楽しさ、ワクワクするようなビジョンを描く」など、活発な意見が交わされました。

経営者は政治とどう向き合うか

伊勢崎支部７月例会

七月二十四日（月）、プラザ・アリアを会場に「伊勢崎支部七月例会」を開催。「中小企業と地方政治～経営者は政治とどう向き合うか、どう活用するか～」と題して、㈲ビクトリー・根岸氏、㈲アーバンスペース・榎原氏（いずれも伊勢崎支部）の問題提起をもとに学び合いました。

根岸氏は、県内畜産業の窮状を政治家に直接伝えたことで「補助金や資金注入が受けやすくなった」という事例を紹介。自助努力だけでは限界があることを踏まえ、「経営者が政治家に直接、具体的に提案するのが大切ではないか」と参加者に訴えました。また、榎原氏は「仕事へのメリットは何もない」と前置きした上で、支持政党の党員活動の様子を詳細に説明。さらに先般の総裁選について、その内幕や持論を率直に語りました。

報告後は、ゲストとしてお迎えした群馬県議会議員の須永聡氏・あべともよ氏を囲んで、全体での意見交換会を実施。経営者から政治家（中小企業から政治）に伝えたいこと、望むことなどを投げ掛け、県議のお二人にお答えいただきました。須永氏・あべ氏には心より感謝申し上げます。

ゼロからのSTART

太田支部7月例会

七月二十日（木）に開催された太田支部例会は、フットケア事業（サロン、訪問、スクール）イベント主催などを行うNicolulu、代表・渡辺真由美氏（鶴の花部会長／太田支部副支部長）が、「ゼロからのSTART～全力で駆け抜けた十年間～」と題して経営体験報告を行いました。

自己紹介・事業紹介に続いて、起業から現在までの十年の歩みを第一章「勢い」・第二章「転換期」・第三章「使命」・第四章「覚悟」・第五章「拡大」と、その時々のステージごとに紹介していきましたが、どのタイミングでも持ち前のポジティブ思考と大胆な決断が印象的でした。また、転換期に同友会に入会してからは、例会への参加がモチベーション向上に繋がったと言います。以降は運営委員、理事、鶴の花部会長と役割も増えていきますが、それぞれの経験が自社のどの部分に役立っているのかも報告しました。

参加者アンケートには「目標が明確だからこそ即行動に移せる。見習いたい」「勢いと計画のバランスが大切」「学んで実践さらに報告と、同友会活動を体現している」といった感想が記されていました。

多角化戦略　天国と地獄

高崎支部７月例会

七月二十六日（水）、ビエント高崎を会場に「高崎支部七月例会」を開催。空調設備・ダクト工事などを手掛ける三朋企業㈱、代表取締役・宮石喜康氏（高崎支部）が報告者を務め、「多角化戦略　天国と地獄～社長歴十八年で売上・社員数ともに倍増させたが、その実情は…～」をテーマに自身の経営体験を語りました。

平成二十六年の青果店の引き継ぎを皮切りに、精密板金会社のM&A（現伊勢崎工場）、館林の電気会社のグループ化など、多角化戦略に取り組んだ経緯や現状の課題を赤裸々に報告した宮石氏。多角化に取り組む理由として「社員を飽きさせない、常にチャレンジする会社でありたい」と語る一方で、赤字部門の改善計画にも触れ、「赤字は社員のせいではなく、社長と幹部の責任。原因を徹底的に調べて対策を打ち、その解消に向けて頑張りたい」との決意を語りました。

報告終了後は「経営課題の打開策」を中心にグループ討論を実施。「どんな会社にも課題はあるので、経営者の捉え方が大事」「各社の課題と打開策がシェアできて有意義だった」など、活発な意見が交わされました。

『同友ぐんま（通常号）』
広告募集

［広 告 料］2万円（一口×6回掲載）
［スペース］縦44mm×横87mm（一口分）

＊掲載を希望される場合は、同友会事務局までご連絡をお願いいたします

群馬中小企業家同友会・事務局
TEL 027-232-0001　FAX 027-232-0666

パートナーシップ構築宣言の推進と価格転嫁を促す群馬共同宣言

11団体で宣言式

八月四日（金）、県庁32階のネッゲンにおいて「パートナーシップ構築宣言の推進と価格転嫁を促す群馬共同宣言」の宣言式が開かれました。群馬県等の行政機関をはじめ、県内経済団体や労働団体の計十一団体の代表者が集まり、群馬同友会からは町田代表理事が出席しました。

この共同宣言は、原材料価格やエネルギーコストの高騰、賃上げの社会的要請などが進む中、関係団体が連携することで、適切な価格転嫁や取引適正化、地域経済の活性化につなげていくものです。全文は下記の通り。

【宣言機関・団体（11 団体）】
群馬県経営者協会、群馬県商工会議所連合会、群馬県商工会連合会、群馬県中小企業団体中央会、群馬経済同友会、群馬中小企業家同友会、日本労働組合総連合会群馬県連合会、群馬県産業支援機構、関東経済産業局、群馬労働局、群馬県

パートナーシップ構築宣言の推進と価格転嫁を促す群馬共同宣言

原材料価格やエネルギーコストの高騰、人手不足による人件費の上方圧力の高まり、消費者物価上昇等に対応するための賃上げの社会的要請など、地域経済を取り巻く環境は大きな岐路に差し掛かっている。この困難な時代を乗り切るには、同じ目的・目標を目指すパートナーであるサプライチェーン構成企業各社の共存共栄、相互成長は欠かせない。私たちはこれを実現するために、パートナーシップ構築宣言の更なる推進と、価格転嫁のスムーズな展開を図り、地域経済の活性化に寄与するべく、下記のとおり宣言する。

記

1．パートナーシップ構築宣言の更なる推進のために

◆各団体は、傘下企業に対する積極的な周知活動を行うことにより、パートナーシップ構築宣言登録企業数の拡大を推進する。

◆行政及び自治体は、団体の周知活動を支援する。

2．価格転嫁のスムーズな展開のために

◆企業は、単にパートナーシップ構築を宣言するにとどまらず、その実効性を確保するため、以下の諸点の実践に努める。

・社内関連部門・担当者に対し、パートナーシップ構築宣言の主旨等について周知し、浸透を図る。

・パートナーシップ構築を宣言していることを取引先に開示し、取引先が価格協議の申し出をしやすい環境づくりを進める。また、協議の申し出があった場合、積極的に応じる。

・労務費・原材料費・エネルギー費等各種コストの上昇分を取引対価に加味するなど、申し出に対し前向きな対応を図る。

3．その他

◆各構成員は、それぞれの専門分野において、価格転嫁の状況に関する情報収集と、構成員相互の情報共有に努める。

◆その他、この宣言の目的を達成するために必要な事項を実践する。

以上

会員たんしん

同友会のホームページで会員検索できます。

【釜めしと温泉　タクシーでPR】

㈱磯部ガーデン

安中市磯部地区の磯部温泉発祥とされる「温泉マーク」と、同市横川地区の名物「峠の釜めし」にちなんだラッピングタクシー２台が24日、同市のＪＲ磯部、横川両駅でお披露目された。地元の観光関係者ら約10人が集まり、完成を祝うとともに市内を巡回する広告媒体としての経済効果に期待した。

東武トップツアーズ（東京都）の協定運輸観光施設連盟と協定旅館ホテル連盟が助成する「強者（ツアモン）事業」の一環として実現した。企画提案した㈱磯部ガーデン、取締役社長・櫻井太作氏（富岡安中支部所属）は「おもてなしの一つとして、２次交通でご当地のものを生かしてPRしたい」と決意を新たにしていた。

［７／25付上毛］

【廃ペンションを障害者ホームに】

㈲HIRO建築工房

建築事務所㈲HIRO建築工房（代表取締役・伊藤昭博氏／沼田支部所属）が、みなかみ町の廃ペンションを利活用した障害者向けのグループホーム「KNOOP（クノープ）」を開所した。自然豊かな環境で健康的な生活を送ってもらい、自立に向けて最適な住環境を提供する。住民との交流を深め、地域の集いの場としての役割も期待している。

「クノープ」の名称には、人と人を「つなぐ」という意味が込められる。伊藤代表は「利用者に伸び伸びと暮らしてもらいたい。住民との交流が生まれ、相乗効果で地域の過疎化の解決にも発展してほしい」と話す。

［８／２付上毛］

【動画で採用活動支援】

アイコム㈱

県内中小企業の採用活動を後押ししようと、人材派遣などを手がけるアイコム㈱（代表取締役・内田恵氏／高崎支部所属）は、動画投稿サイト「ユーチューブ」で企業の仕事内容や求人情報を紹介する動画を配信している。

内田社長が従業員に仕事内容ややりがいなどを聞くインタビュー形式。10分以内を目安にテロップを付けて見やすく編集している。従業員の生の声や業務の様子を紹介することで、求職者に働くイメージを持ってもらい、採用後の定着を目指す。

内田社長は「県内の多くを占める中小企業の良さを知ることができれば、県外から就職先として戻るきっかけになると思う。動画で魅力を発信したい」と意気込む。紹介する企業の募集もしている。

［８／３付上毛］

【大学　理系育成を強化】

共愛学園前橋国際大学

大学がデジタルや脱炭素、情報分野などの理工系学部の新設・拡充を目指す動きが広がっている。県内では共愛学園前橋国際大学（学長・大森昭生氏／前橋支部所属）が同大初となる理系の学部新設を目指すほか、群馬大が大学院の研究科を改組し、理系人の育成機能を強化する。どちらも理系の学位取得者の増加に向けた文部科学省の支援制度の対象に選ばれており、社会的ニーズに応え、大学の価値向上と学生の獲得につなげる。

前橋国際大が目指すのは「デジタル・グリーン学部デジタル・グリーン学科」の新設。構想ではデジタル分野や脱炭素に関する知見を持ち、地域課題を解決できる人材を育てる。前橋市が目指すデジタルを用いた共助型未来都市の実現、科学技術による食の問題解決などと関連させることも視野に入れる。

大森昭生学長は不足するデジタル人材を地元で育てる必要性を指摘した上で、「少子化が進む中、今後の地方大学には社会のニーズに広く応えられる体制が必要になる」と意義を協調する。

［８／11付上毛］

【シャーベット飲料　熱中症対策で注目】

赤城フーズ㈱

細かい氷の粒と液体が混ざったシャーベット状の飲料「アイススラリー」が、熱中症対策として注目されている。水分を補給していても、厳しい暑さで体温が上昇を続ければ熱中症になる危険がある。アイススラリーで体を内側から冷やすことで速やかに体温を下げられるほか、運動などの前に飲めば体温上昇の抑制にも効果的という。

漬物を製造販売する赤城フーズ㈱（代表取締役社長・遠山昌子氏／前橋支部所属）は、６月に発売した梅味アイススラリーがインターネット販売で一時品切れになるほどの人気となった。来年以降も夏季限定で販売するという。

［８／15付上毛］

【寄付型私募債初引き受け】

利根郡信用金庫

利根郡信用金庫（理事長・坂井隆氏／沼田支部所属）は、トウショウレックス（高崎市）が発行する寄付型の私募債「とねしんSDGs私募債『ちいきのミライ』」を引き受けた。同私募債の取り扱いは初めて。

同私募債は国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」達成に向けた取り組みを支援しようと、発行額の0.2％以上の金額で寄贈を行う。

［８／22付上毛］

【音楽や工作で英語に親しむ】

共愛学園前橋国際大学

子供たちが学校以外で英語に慣れる場をつくろうと、前橋市の共愛学園前橋国際大学（学長・大森昭生氏／前橋支部所属）で22日、グローバル教育ワークショップが始まった。伊勢崎市内の小学５、６年生17人が23日までゲームや工作、音楽などを通じて英語に親しむ。

同大と伊勢崎市教委の共催で、同大の学生８人が企画し、講師も務めている。22日は児童が３チームに分かれて、ゲームや工作を楽しみながら身近な職業や果物などの英単語を学び、会話にも挑戦した。23日はゲームに加え、全員で洋楽を歌ってダンスを披露する。

［８／23付上毛］

【取締役会長就任】

㈱山岸製作所、代表取締役・山岸良一氏（高崎支部所属）は、この度、「取締役会長」に就任しました。

第4回 理事会報告

日時　八月一日（火）
※今回も同友会事務所とオンライン併用のハイブリッド開催となりました。

出席者（順不同・敬称略）
正副代表理事／田村、町田、杉﨑、阿久戸、吉池、**理事**／小板橋、山﨑、提箸、本多、小林、佐藤、高屋敷、渡辺、小池、周藤、神保、金子、池沢、佐藤、齋藤、阿久戸、中西、関口、石原、**事務局**／阿久澤、竹内（役員計二十四名）

【議　事】
沼田支部長の金子氏が議長をつとめ、町田代表理事挨拶のもと、第四回理事会開会。

Ⅰ．報告連絡事項

1．各支部・部会・委員会等の案内報告
各組織担当者より、活動報告や今後の計画、依頼事項などがありました。

2．その他
七月に埼玉で開催された第五十五回中同協定時総会の参加報告が小林政策委員長、第一回全国幹事会の参加報告が阿久戸副代表理事よりありました。
また、今後の中同協関連行事・ブロック行事の予定が各組織担当者より案内されました。

Ⅱ．審議・承認事項

1．五〇周年記念誌の発行について
佐藤広報メディア戦略委員長より、五〇周年記念誌の発行スケジュールや部数、誌面構成などが提案され、これを承認しました。また、合わせて会員寄稿（各支部三名以上＋委員会・部会）＆協賛広告募集の依頼がありました。

2．二〇二三経営研究集会の開催日程について
研究集会実行委員会より、七月理事会で提案された日程案で講師の了承が得られたことが報告され、これを承認しました。
開催概要は左記のとおり。
日程／十一月十七日（金）
会場／ホテルベラヴィータ（ハイブリッド開催予定）

3．入退会者承認と仲間づくりについて
前回理事会以降の入会者一名、退会者三名を承認。会員数は五四〇名となりました。

Ⅲ．意見交換・その他

1．意見交換
町田代表理事より「今後の群馬同友会としてのオンライン利用のあり方」について問題提起があり、オンライン利用のメリットやデメリット、賛否などを含めグループ討論で率直な意見交換が行われました。

2．第五回理事会の開催確認
次回理事会を左記の通り開催することが確認され、議長選任は富岡安中支部に依頼しました。
■日時／九月五日（火）
■会場／同友会事務所＋ウェブ（併用）

環境を思う、未来を想う
あらためて誓う
上武印刷

優れた環境適応性。
より高精細で美しい仕上がり
「水なし印刷」システム
「水なし印刷」は、湿し水を使用せず有害な廃液を0にし、その結果CO_2を削減します。環境への負荷が格段に少ない印刷システムです。

ムダな廃棄物を出さない。
必要な時に必要な部数を
オンデマンド印刷
オンデマンド印刷は、「必要な時、必要なだけ」の印刷でムダがなく、環境面で優れています。また、印刷コストを抑え、納期も短縮できます。

私たちは、環境にも、お客様にもやさしい企業を目指します。
群馬県環境GS認定事業所
上武印刷株式会社
〒370-0015 高崎市島野町890-25
TEL 027(352)7445(代)　E-mail eigyo@jp-t.co.jp
FAX 027(352)2953(営業)　URL http://www.jp-t.co.jp/
Waterless Printing. Naturally.
FSC www.fsc.org FSC® C117691

軽量鉄骨システム建築 プレハブハウス
用途に合わせ自由設計、コスト削減（事務所、店舗、倉庫、他）
プレハブパネル工法は規格部材を工場生産　経済性に優れ、短工期
株式会社 三栄工業
〒378-0002 群馬県沼田市横塚町 896－2
TEL. 0278－20－1110　FAX. 0278－22－2102
URL http://kk-sanei.net/